

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102087		
法人名	社会福祉 愛誠会		
事業所名	グループホーム八景水谷		
所在地	熊本市北区八景水谷1-5-1		
自己評価作成日	令和 4年 3月 1日	評価結果市町村報告日	令和 4年 5月 18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>玄関は安全対策として顔認証を導入し、防犯も含め安全面に配慮して環境面を整えている。更にご本人が培ってきた、今までのライフスタイルを合わせたケアを提供し健康面に関しては、入院・治療の必要性が発生しても施設内での適切な医療を提供できるように医療との連携を密に行っている。また、ご本人の精神的負担や認知症の進行を防ぐ実践として、新たにユマニチュードケアの取り組みを行っている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>菊池電車沿線に沿ったホームは日々の生活感があり、玄関ホールの華やかな花々や入居者手作りの陶芸・手芸品に加え、入居者の笑顔が想像できるような楽し気な声で出迎えて頂きました。基本理念である「＝皆様に＝笑顔・感謝・思いやり」の取組みのもと、介護度の高い入居者にも日々の動きを大切に、職員見守りの中で生活に参加して頂き、寝たきりゼロを旨としたケアが行われています。近年のコロナ禍で事業所内で過ごす時間も長くなる中、入居者が弾くピアノを聞きながらお茶を飲んだり、職員が見守り入居者自らがモップで掃除をしたりと、家庭での生活が継続されているようでした。毎月の職員会議と職員研修等も充実しており、入居者の生活を支えるケアのため、身体拘束廃止委員会での学びやユマニチュードケアの取組み等が行われています。職員面談でもとても働きやすい環境であることが聞かれました。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号		
訪問調査日	令和 4年 3月 31日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	検討部会やユニット会議にて理念の共有に努め実践に繋がるように行っている。	事業所基本理念である「笑顔・感謝・思いやり」及び職員に対するケア理念がある。職員会議時には理念にも触れ、振り返り、共有する機会を持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	清水まちづくりセンターの清水公民館等、外部との情報交換を行い交流内容等工夫し働きかけている。また、地域行事への参加も心掛けている。中でも近隣の美容室行かれてたり、地域行事への参加を行っていたが、コロナ禍で実践できず。	例年、地域との交流や情報交換を行っているが、コロナ禍であることから実施が難しい状況であった。生活の面では、新聞や牛乳の配達を受ける等、地域住民としての関わりがある。	コロナ禍であり、従来の地域とのつきあいや交流が難しい状況であった様子が聞かれました。コロナ禍でも可能な工夫を含め、入居者と地域との繋がりを感じることが出来る取組みの工夫に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議で認知症の方の実情や身体拘束について報告し、現在行っている支援を伝えている。また、ささえりあ新地や清水・高平からの依頼により認知症サポーター養成講座を通し認知症の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議を通し現状報告や課題を挙げて話し合う場を設けている。	例年2ヶ月に1回の運営推進会議を開催しているが、コロナ禍により資料報告となっている。事業所への意見等を得るため、返信用紙を同封する等の工夫を行った。	リスクレベルに応じて開催の検討がなされていましたが今年度は書面による報告でした。このような時期であるからこそ、多面からの意見を得る取組みの継続に期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困りごと等こまめに連絡を取り、事業所の実情やサービスの取り組みを伝え協力関係の構築に繋がるように取り組んでいたがコロナ禍でおこなえていない。	運営推進会議の開催が難しい状況であったため、書面により事業所の取組みや活動の様子を伝えている。日頃より不明点や困りごと等の報告・連絡・相談で連絡を取るとともにサービスの取組みを伝え協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	検討部会や各ユニット会議にて身体拘束をしないケアについて学びの場を設け、実践に活かせるように取り組んでいる。	事業所全職員での検討部会や各ユニットで会議の際に身体拘束をしないケアについて資料を用い勉強会を行っている。事業所では出来るだけ自由に過ごして欲しいとの考えで活動しており、自由に対するリスクも家族と共有し取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議やユニット会議等、他事業所合同の会議にて虐待について議題を上げ学び細心の注意をし、防止に取り組んでいる。		

グループホーム八景水谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	ユニット会議、検討部会で時間を設け学び、活用できるように支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明責任は果たしている。また改定の際は、書面で説明を行っている。遠方の方は郵送を行い電話で説明を行い理解を得た上で同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議に参加して頂き意見を述べる機会を設けています。	入居者の意見・要望は日頃の職員との関わりの中で把握している。コロナ禍である今、面会の制限により家族から直接意見を得る機会は少なくなったが、電話等により入居者の状況を伝えたり必要時の来訪の際、意見や要望を得る機会としている。	リスクレベルや事業所判断により面会受入れが難しい時期もあった様子が聞かれました。このような時期であるからこそ、入居者や家族の意見を得る機会作りの工夫に期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の検討部会やユニット会議などで意見や提案を聞き反映させている。	管理者も日頃のケアに携わっているため、職員はいつでも意見や提案を表すことができる。管理者も職員の様子に配慮した声掛けを行っており、職員の働きやすい環境を整えている。職員面談でも意見や困りごとを伝えやすい環境である意見が聞かれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務に関しては希望休を取りやすくし、子育て支援等にも配慮している。向上心が保てるように各自の目標を把握し、職場環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会や実務者研修及び権利擁護研修への参加を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本部での施設サービスの会議や外部の研修への参加をし、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に生活歴など情報交換をし、入居後不安なく過ごして頂けるように配慮し関係づくりに努めている。日々の生活状況の中でより良い関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に相談を受け、情報交換を行い安心感を持って頂けるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスについては、遠方の家族も多く帰省の際に意見交換や携帯や電話、メール等を活用し支援内容等の把握をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らす家族のように一方的にならないよう意見を聞きながら、利用者に応じた関りの中で関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症の時期以外は自由に面会をして頂いている。生活のご様子をお伝えし、馴染みの物や季節に応じた衣類などの準備をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所の近所に住まれていた方は、行きつけの美容室や行事参加しておられ馴染みの関係が継続できるように努めている。	従来、地域行事への参加や家族だけでなく知人の来訪も受入れているが、現在は来訪や外出による交流が難しい状況である。出来るだけの家族との関わりやご近所付き合いのような2ユニット間の交流等が馴染みの関係となっている。コロナ終息の際には家族との交流に取組む予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員や利用者同士との馴染みの関係づくりを行っている。また、テーブル等席の配置への配慮に努め共に支え合う関係作りに繋がるように物的・人的・空間の環境を整える工夫を行っている。		

グループホーム八景水谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も病院等との情報交換を行ったり相談支援が必要な場合は、フォローを行っている。例えば介護保険更新の準備や家族が提出する場合の書き方等。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とコミュニケーション取りながら、不安や思い等を拾い上げ、家族から聞き取りを行いニーズを把握できるように努めている。	入居者の思いは職員との日頃の関わりで把握している。事業所は「家」であるとの思いから、職員の寄り添い・見守りの中、活動的な生活が行われている。編み物等趣味の継続も見られ、日常生活でも新聞を読んだりテレビを見たり、時には一人居室で過ごす等、思い思いの姿がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や環境を知り入居前までのサービスの経過等の情報を把握し生活の中に取り込んでいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方については、認知面の低下や周辺症状に合わせた残存機能を活す場を設け、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニットにて介護計画含めお一人おひとりの現状を話し合いながら意見や工夫を行い改善をすることにより介護計画に反映している。	入居者一人ひとりの日常生活の様子や家族の意向も確認し3ヶ月毎のモニタリング、6ヶ月に1回の見直しを基本としている。モニタリングや課題に対する評価については、医師・訪問看護・訪問リハ等サービスに関わる関係機関からの意見も得、入居者の現状に即した介護計画の作成・見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のユニット会議や検討部会での情報交換により実践内容やプランの内容をその都度検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のサービスに関しての要望が多様化している為、柔軟な支援に繋がるように努めている。		

グループホーム八景水谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や馴染みの美容室などの利用を行っている。その他にも熊日新聞や明治牛乳等の配達も活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の継続や訪問診療、自分に合った病院の選択を自由にして頂いている。訪問看護・リハによる支援もあり、医療面の充実を図っている。	入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。往診以外の医療機関受診の際は現在コロナ禍であるため職員支援を行っているが、状況によっては家族も同席頂く。医師の判断により訪問看護・訪問リハビリの支援もある。希望者は月2回歯科衛生士による口腔チェックを受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケース記録は看護師も一緒に緑で記入。看護職員や介護職員も同じ送りノートにて情報交換を行い連携を図っている。必要な受診などはかかりつけ医へ連絡し適切な医療を提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力体制を密に取りながら入退院時のサービス担当者会議などを通して病院関係者と関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については書面化し入居の際、家族の意向を確認している。また、必要に応じて再度確認を行い支援が出来るように努めている。現時点では最終的に医療での治療を望まされるケースがあり、施設での終末期は実践できていないのが現状である。	重度化や終末期に向けた事業所の方針は入居時に説明し入居者及び家族に意向を確認している。実際にその時を迎えた際には関係機関で話し合いを重ね、医師の判断で訪問看護を利用する例もあり、出来るだけの支援に取組む。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による緊急時の指導や急変時の対応などはユニット会議や検討部会で話し合いを行う。対応の仕方などは看護職員からの直接の指導もあり実践的に周知に努めた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策に関しては、担当を決め消防訓練を自主訓練を2ヶ月に一回、総合的に年1回としている。防火訓練だけでなく防災も含め取り組んでいる。	消防訓練は担当職員がシチュエーションを都度想定し行っており、訓練時には防災業者からの消防設備教育を受け、終了後は職員の意見を集約し検討会を行っている。防災管理規程では予防管理対策、自衛消防活動、地震対策、教育・訓練を定めている。	

グループホーム八景水谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけなどのコミュニケーションの取り方についてもユニット会議や検討部会で問題がある場合は検討している。	入居者との日々の関わりの中で、言葉遣いや言葉かけ、部屋へ入る際のノック等配慮したケアを行っている。オムツ利用等、入居者の羞恥心への配慮として職員間で勉強会を行った。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当者を決めニーズに合わせた細やかな対応が出来るように各委員会で検討しユニット会議や検討部会で再度問題提起を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	排泄も個別にて対応し食事時間も本人の希望に合わせて対応している。入浴に関しても希望に合わせた対応が出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた衣服の調整や化粧品も揃え、お出かけの際はお化粧をして出かけている。また、ネイルやマッサージなども取り入れ対応をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は朝食のみ事業所で準備している。好みや食事形態なども工夫しその方に合った内容を提供している。能力的に手伝いを希望され方に応じた後片付けなどをお願いしている。	昼・夕食は法人の他事業所で調理された食事を提供しており、行事食等工夫を凝らした献立である。事業所でも干し柿や金柑煮、イベントでのお菓子作り等、季節の手作りを楽しむ取組みを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と連携し、その方に合わせた食事を提供している。食事・水分摂取量は日計表を活用している。更に体重増減に関しては測定が全員出来るよう工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの励行を行い、定期的訪問歯科を導入し適切な治療及び助言を頂いている。		

グループホーム八景水谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に関しては、その方の状態に合わせたケアを行っている。基本的にオムツ使用は控え、日中はトイレやPTイレを使用して頂くように配慮している。	入居者の身体状況にもよるが、基本的に日中は入居者の仕草や時間によりトイレでの排泄へ誘導している。夜間は入居者それぞれの身体状況に合わせた支援を行っている。出来るだけオムツを使用しない支援としており、安易なオムツ使用は行っていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握により好みを把握し個別の飲み物を準備するなど工夫を行っている。また就寝前の水分補給も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の要望に合わせて対応している。同性介助を希望されるため、その配慮も行っている。また、入浴時の保湿クリーム塗布を行い保湿対策をしている。	基本的に週2～3回の入浴を基本とし、職員体制により午前・午後いずれかとしている。機械浴も完備しており、車椅子利用の入居者等状況により使用している。	入居者の状況により一般浴、機械浴、シャワー等対応されている様子が聞かれました。着替え準備時には希望があまり聞かれなくなった様子が窺えましたが、生活の中での選択の場面の一つとして、声掛けの工夫に期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた生活習慣を大切に、ご自身の馴染みの枕や布団や毛布を準備してもらっている。ラジオやCDラジカセを活用し音楽療法も行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員の管理と介護福祉士の連携により4重チェックを実施している。病状変化や内服が変わった際には記録や各ユニットにある申し送りノートを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に合わせた嗜好品やレクリエーション、役割を持って頂き気分転換に繋がるように行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	図書館や八景水谷公園等外出を行っているが、異常なる環境変化による健康面の配慮が必要な為、一人一人に合わせた外出は行っていない。	従来、地域との交流や近隣への外出等がなされていたが、コロナ禍であるため一人ひとりのその日の希望にそった外出支援は難しい状況であった。個別に「出かけたがたい」の要望があった際には車で周回したり、職員が車で外出の際に入居者を連れて出かける等を行っている。パンの移動販売車が来訪の際は入居者も駐車場へ出向き、外気を感じる機会としている。	

グループホーム八景水谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現時点ではお金の管理は預かり金にて対応しており、個人で持たせることはしていない。また家族の希望もあり本人に持たせることでトラブルになる可能性もあり希望されない家族もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を活用したり、メールなどで支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衛生面や安全面に配慮し、照明の調整や空調、室内温度などにも配慮している。	玄関ホールを中心に左右にユニットが配置されている。玄関ホールは入居者の手作りの陶芸や花が華やかに飾られており、時には入居者が弾くピアノを聞きながらお茶を飲む姿も見られる。事業所内は入居者自らが掃除を行う姿もあり、入居者も居心地よい住環境となるよう関わりを持っている。ユニットは食堂とリビングを分け、思い思いに過ごすことができる空間となっている。季節を感じることができるよう、季節の木花を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間を分けており気の合う方同士で過ごして頂くよう配慮している。生活環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物（仏壇や位牌、専用のソファ、本・ぬいぐるみ等）を持ち込んで頂き、本人が安心して過ごして頂けるようにしている。	入居者それぞれの生活環境や好みに合わせた設えがなされている。中には家族の希望でカーペット敷きもある。座椅子やテーブル、筆筒等も持ち込まれており、家族の関わりも感じることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、廊下の長さも確保されており自主訓練として散歩や歩行訓練等を行っている。家事支援として、掃除や洗濯干し、洗濯たたみ等を行い、今まで培った日々の暮らしの中の雰囲気に触れて頂いている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名グループホーム八景水谷
作成日 令和 4年 5月 18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的な交流が不足している	外出の機会や地域交流を増やす	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への参加 ・外出行事を増やす 	6カ月
2	19	コロナ禍で家族との交流が少ない	新型コロナウイルス感染状況をみつつ、面会制限緩和、施設からの利用者様への報告を密に行う	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的家族への連絡 ・広報誌の配布 	6カ月
3	25	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めているが、時には業務を優先せざるを得ない場合がある。	ユマニチュードケアの実践とマニュアル作り	<ul style="list-style-type: none"> ・組織全体で委員を選任し事業所毎に実践・改善点の統計作成 ・ケアのマニュアル作り 	6カ月
4	26	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合いを行い、現状に即した介護計画を作成。記録に残す。	ユマニチュードケアを取り入れたケアプランの作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアプランの見直し ・必要時の主治医を交えた、ご本人、家族との参加による定期的サービス担当者会議の開催 	6カ月
5	2	新型コロナの影響もあり、事業所自体が地域の一員として日常的な交流が不足している。	外出の機会やイベントの機会を設ける	<ul style="list-style-type: none"> ・清水まちづくりセンターの公民館等との交流の機会を多くする。 ・地域行事への参加 	6カ月
